

# 瞳輝いて



さかもと はる き  
坂本 治 希 くん  
(笠岡高校1年)

## 生まれた頃からのピアニスト

坂本くんは、8月21日から23日にかけて東京で開催された「第28回ピティナ・ピアノコンペティション」のソロ部門E級でベスト10賞を受賞しました。

昨年の同大会では、はじめて中四国大会まで進んだものの、全国大会までは手が届かず、「すごいまい人ばかりだと思った。」と本人が語るように、技術の壁を感じたそうです。今回はその悔しさをバネにしてのベスト10入り。

家族みんなが音楽好きという環境の中で育ち、物心ついた頃にはすでにピアノを弾いていたと言います。ピアノで大切なのは、「曲のイメージをふくらませ、作曲者の背景や精神を引き出す」ことなんだとか。

将来の夢について聞いてみると、「今、本当にピアノを一生懸命がんばっているの、プロの演奏家になりたい。」と自信いっぱい語ってくれました。

## 展覧会のご案内

特別展「もりたになんじんし  
森谷南人子のすべて」

10月16日(土)～11月23日(火)

笠岡出身の日本画家、森谷南人子の画業を紹介する特別展です。

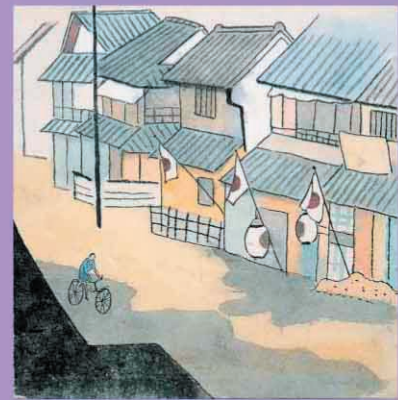


〒714-0087  
笠岡市六番町1-17  
Tel. 63-3967  
ホームページ  
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

明治22年生まれ竹喬にとって、記憶の中の明治時代はそのまま笠岡での幼い日々の思い出でもあった。「天皇の世紀」の挿絵を描くために遠い日にさかのぼって、「幼いころ、日の丸の旗が立つ祝日は、何ということなく明るい気持ちの一日であった。秋晴れの天長節という、よけいにうれしかった」と記している。

笠岡で過ごした少年時代、竹喬は友達と城山に登ってこつそりと畑の芋を掘り起こして食べたたり、また海岸に泳ぎに出れば岩についた牡蠣をとったりして遊んでいたという。明治頃まで通貨として使われていた文久銭を持って、飴玉や牛蒡菓子などを買ったこともあったようだ。現在の笠岡駅に程近い場所にあった自宅には、画家であった祖父白神澹庵の絵があり、学校では理科の教科書の啄木鳥や、菓の絵に興味を惹かれていたという。

描かれた祝日の様子は故郷笠岡のものであろうか。ワンピース姿の女性が自転車で乗る道沿いには旗が立ち、秋の爽やかな日差しと空気が伝わってくる。



「祝日」

小野竹喬 作

朝日新聞「天皇の世紀」挿画  
昭和42年11月19日掲載  
15.4×15.1cm

## 竹喬美術館の光彩22

## 今月の表紙

9月19日、六島「スイセンの郷づくりツアー」が開催されました。当日は朝から時折激しい雨が降る中、53人が参加。六島到着時にも激しい雨が降っていたため、先に漁具を使ったアクセサリーづくりやピワヤバベの切り株を利用したコースターづくりを行いました。雨が上がったお昼前からは、六島に自生する水仙の球根を灯台へつつく道沿いの畑に移植しました。参加した人たちは、「水仙が咲く頃にまた来たい。」との声が多く聞かれました。

## 係から

9月は、台風16号・18号の襲来により、市内でも床上浸水など大きな被害をもたらしました。被害に遭われた皆さんに心からお見舞い申し上げます。

復旧作業には市内外からボランティアの人たちがたくさん駆けつけ、また、各種団体などから義援金の寄附をいただいています。こうした事態に際しては、まさに助け合いの精神の大切さを改めて実感します。

自然災害はいつ起こるかわかりません。皆さん日頃から十分な備えをしましょう。(向)



発行日/平成16年10月1日  
発行/笠岡市役所  
編集/まちづくり推進課  
〒714-8601 笠岡市中央町1-1  
Tel. 69-2110

印刷所/株式会社正文社印刷所 ☎66-1687

笠岡市ホームページ: <http://www.city.kasaoka.okayama.jp>  
メールアドレス: [kouhou@city.kasaoka.okayama.jp](mailto:kouhou@city.kasaoka.okayama.jp)



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。

100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています